

● 中国

松本憲治

様々な形態、特に演奏者本位から観客本位のクラシック・コンサートが年々増加している感。だからこそ「地域の音楽家の社会認知」や「高度な専門性を持った人材を擁する公演制作事務局の必要性の認知と予算措置」が、演奏者のみならず一般市民観客のためにも、特に地方においては求められる。趣旨はすでに17年6月に改まった文化芸術基本法や、また「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」で謳われているが、無論その理念が地方の関係者に周知されるにはタイムラグがあるのだろう。

広島。広島交響楽団。今まで音楽監督だった秋山和慶のファイナルは3月の第368回定期演奏会で、Mozartのクラリネット協奏曲A dur、そしてR.シュトラウス「英雄の生涯」。98年に首席指揮者就任以来20年、広響に関わった功績は大きい。引き続き「終身名誉指揮者」として広響に関わる。17年度4月からは音楽総監督に下野竜也が就任。NHKや民放各社が報道以外にも話題に取り上げ、また車体広告を出した市内電車が広島市内を走るなど、一般市民的な賑やかな話題に。下野の最初の定期(第369回)は4月14日、大阪シンフォニーホールでブルックナーの交響曲第8番。また音楽監督就任記念シリーズとした、7月(372回)、10月(374回)の定期には「三人の会、シューマンに寄す」として、シューマンの交響曲2番、3番、そして戦後の日本の作曲を牽引した「三人の会」、まずは黛敏郎の「曼荼羅交響曲」團伊玖磨の管弦楽幻想曲「飛天繚乱」を取り上げた。他にプレミアム定期(375回)として11月14日広島、15日大阪公演をハンス・リントゥ指揮で。バルトーク「管弦楽のための協奏曲」の他、「新発見曲」としてストラヴィンスキー「葬送の歌op.5」など。恒例の「平和の夕べコンサート」では下野の棒で、R.シュトラウスの「死と変容」を8月5日に。

同じ下野竜也音楽監督・指揮の広島ウインドオーケストラ、5月に第47回(指揮・広上淳一)、12月に第48回定期演奏会(シカゴ壮行公演)ののち渡米、シカゴ・ミッドウエストクリニクにメインゲストとして招待され、公演。この演奏団体は今年は大いに話題を提供した。

大植英次プロデュース、威風堂々クラシック in Hiroshima委員会主催「威風堂々クラシック in Hiroshima」が、今年は11月18日～19日の2日間。基本は「街角コンサート」の形をとったトーク付きアンサンブル無料公演を市内のホテル、美術館、企業ビルのロビー、デパート、地下街の広場などで10回公演。演奏者は一般公募のジュニア、若者や市内を中心としたプロ演奏家たち。最終日は有料公演で「心音オーケストラ」という公募の若手演奏家オケで、ホルストの「惑星」やムソルグスキー「展覧会の絵」などを。

アステールプラザで継続されている、ひろしまオペラルネットワーク。オペラ公演は9月30日、10月1日にモーツァルト「コジ・ファン・トゥッテ」を。指揮・川瀬賢太郎、演出・岩田達宗。管弦楽・広島交響楽団。在広のオペラ団体公演、広島シティーオペラ推進委員会が3月に第九回公演「ラ・ボエーム」。指揮・奥村哲也、演出・飯塚勲生。広島オペラアンサンブルが11月に第42回公演、マスカーニ「カヴァレリア・ルスティカー

ナ」、ドニゼッティ「リータ」。指揮・西城秀樹、演出・豊田千晶。

細川俊夫による現代音楽のHIROSHIMA HAPPY NEW EARシリーズ。9月にトランペットのイエールン・ベルワルツによるコンサート「トランペットの世界」。ピアノ・中川賢一。細川の作品「トランペットとピアノのための〈霧の中で〉」G.エネスク「トランペットとピアノのための〈伝説〉」他に、武満徹の「閉じた眼」など。

ピースアーチ・ヒロシマ・プロジェクトは、5月に「平和発信コンサート」として原爆ドーム前で萩原麻未のピアノ演奏。バッハやショパン。また、NPO法人「音楽は平和を運ぶ」は、一般公募の合唱、オーケストラで7月に「人の心に平和のとりでを築くコンサート」を。指揮は田中祐子。加えて芸術文化助成活動やアウトリーチ事業なども行なっている。

33回を迎えた中国放送主催の「第九ひろしま」。公募合唱団は「過去最高の昨年」をさらに上まり1832人。指揮は曾我大介、ソプラノ/小林沙羅、アルト/坂本朱、テノール/西村悟、バリトン/大山大輔。

東広島市。昨年設立の「東広島芸術文化ホールくらら」を中心に、盛んな主催、共催公演。まざヴィタ・ムジカレという地域のオペラ団体のオペラ公演「蝶々夫人」を2月に。指揮・演出もりてつや。東広島市くららジュニアオーケストラ第2回定期演奏会を3月に。12月には出雲ジュニアオーケストラと「X'masジョイントコンサート」を開催している。

岡山。岡山フィルハーモニック管弦楽団が6月、日本オーケストラ連盟の準会員に。中・四国地方での正会員は広島交響楽団のみだが、準会員は瀬戸フィルに次ぐ二番目。その勢いを受けての第53回定期演奏会を7月に。ブラームス「悲劇的序曲」R.シュトラウス「ホルン協奏曲第2番」ブラームス「交響曲第3番」。指揮・三ツ橋敬子、ホルンはシュテファン・ドール。正統と言えるプログラミングに加え彼の人気も相まり盛会。岡山の勢いを感じさせるが、様々な課題を克服しつつ成長発展を期待したい。

岡山ではそのほかにNPO法人東京オペラ協会の岡山支部であるオペラプラザ岡山主催で「ユニヴァーサルデザインオペラ」と称してのオペラ公演。「誰でも参加」の趣旨で一般市民公募のキャスト、合唱、オーケストラで今年は3月に「フィガロの結婚」。石多エドワード台本、指揮萩原勇一。

山口。秋吉台国際芸術村。むしろ県外参加者が多い恒例の現代音楽セミナーが8月中旬に6日間。講師は松平頼暁、山根明季子、足立智美、田中吉史、杉山洋一。第6回秋吉台音楽コンクールが4月末～5月初頭に。サクソフォーン部門1位に住谷美帆(グランプリ賞)、室内楽部門1位なし2位に岸本萌乃加(Vn)黒岩航紀。

鳥根。7月に平田市が石見銀山の登録十周年記念事業として創作オペラ「石見銀山」を初演。脚本・演出:吉田知明、作曲・指揮:中村匡宏。これは9月に東京渋谷の新国立劇場(中劇場)でも。

鳥取では、来年度である平成30年度鳥取県総合芸術文化祭のメイン事業として、オペラ「ヘンゼルとグレーテル」制作発表。4月にオーディション、7月から一年以上かけて稽古。演出・中村敬一、指揮・大勝秀也。